

第2回 岳北地域の高校の将来像を考える協議会 (会議録概要)

日時：令和元年5月14日(火)午前10時40分

場所：飯山高等学校会議室

1 開 会

2 あいさつ

足立会長)

本日はおつかれさまです。

第2回岳北地域の高校の将来像を考える協議会ということになりますが、まずは高校の視察ということで下高井農林高校、そして飯山高校を訪問させていただきました。私は下高井農林高校をじっくり視察したことは初めてであり、大変勉強になりました。

このあとそれぞれの高校の現状と今後の課題についての説明と意見交換がありますので、よろしくをお願いします。

3 協議会委員の変更について

【資料】事務局より説明

4 報告・会議事項

(1) 地域高等学校の現状と今後の課題について

・飯山高校
林校長より説明

・下高井農林高校
横澤校長より説明

(2) 高校の視察および報告を踏まえた意見交換

足立会長)

説明ありがとうございました。それでは、視察と先ほどの報告を踏まえて何でも構いませんので感想や意見をお願いします。

日墓副会長)

大変ありがとうございました。2校見させていただいて、同じ高校であっても中身が全然違うことを改めて実感したわけですが、進学を希望したり地元就職したりしたい子がいる中で、それぞれの学校には子どもたちの要望に応じていただいているため、基本的には両校を残す方向でいきたいと思っています。

「どうやって残していくのか」「将来どんな人材が必要とされるのか」を考える時期なのではと思います。現状では子どもの人口が減っているため、地域の名だたる高校として外からも生徒が呼び込める魅力ある高校にしながら、なおかつ期待に応えていくという形になるよう、検討していきかなと私は思っています。

足立会長)

ありがとうございます。ここで各市村教育長からご意見いただきたいと思います。

小林木島平村教育長)

下高井農林高校と木島平村との関係は非常に密な関係であります。生徒たちも非常に意欲的で、特に課題研究を見ていると、地域に密着した形で生徒たちが追及・勉強しているなと思いました。これからのことを考えますと、地域でどういう子どもたちに育てていくか、また卒業して外へ行ってはどうしたら地元に戻ってきてくれるのか等の課題をクリアして、魅力を感じる高校になってほしいと思います。

下高井農林高校に入って本当によかったなと思える教育課程になるよう、しっかりとバックアップしていきたいと思います。農林高校の話だけになってしまい申し訳ありませんが、以上です。

岩上野沢温泉村教育長)

今日は両校の生徒が活動している様子をみることができ、とても良かったと思います。それぞれの高校で特色のある内容だったと思いました。

野沢温泉村の子どものはほとんどは両校にお世話になっているわけですが、特に下高井農林高校につきましてはたくさんお世話になっております。

下高井農林高校を残すにあたって、子どもたちが求めている教育課程を地域と一緒に作ってほしいなと思いました。また、飯山高校については探究科を中心として、子どもたちが大学に進学し、将来を見据えるような取組も大事かなと思います。

石澤栄村教育長)

私も他市村の皆さまがお話しされたように、両校にそれぞれの特色があり、選択する幅が広がれば広いほど子どもたちのためになりますので、私は両校残す方向で検討したいと思います。

長瀬飯山市教育長)

一番は下高井農林高校を卒業したあと、高校で学んだことが実際地域の基本的な農業にどれくらい役立っているのか、また農業をやるとういう子どもがでてこないということについては、率直に言わせていただくと、下高井農林高校としての1番の課題になるのではと感じました。

また、下高井農林高校だけでなく飯山高校も10年先を考えたときに学科編成も再考していかなければならないと思います。両校へ第一志望で来ることが地域の振興に繋がってくるので、良くしたいなと痛切に思っています。

足立会長)

ありがとうございました。次に、産業界からの意見を聞きたいと思います。

伊東飯山商工会議所会頭)

人口減少がどの市村も大きな課題である中で、高校をどうやって残していくかも問題になると思うわけですが、両校見学させていただいて、この雪の多い北信地域の農業高校というのは、今の地域事情からして絶対に必要だなと感じたところです。ただ内容については色々考える必要があるのかなと思いますが、いずれにしても高校が違いますし、農業というものは日本を担う大きな力となっていきますので、色々知恵を絞っていただいて存続という方向を考えていただきたいと思います。まず人口増を各市村に頑張っていただき、子どもを増やして色々ところで活躍してもらえるといいなと思っています。

中山北信森林組合代表理事組合長)

下高井農林高校は時間の都合により残念ながら視察ができませんでしたが、飯山高校につきましては比較的新しくできた建物で整っているなと思い、充実した学校生活を生徒は送れているのではないかと思います。

高校をでてきてすぐに林業の仕事ができるかということそれは難しく、結局専門学校や大学をでてきてやっとコストラインというのが現実。そう考えると高校教育はもう少し上のレベルの学校を

目指し、地域の教育の場としてどうあるべきかを考えた方がいいのかなと思います。

足立会長)

ありがとうございました。では、その他の皆さんからも意見をいただきたいと思います。

塩崎さん(農業者))

私自身、下高井農林高校を卒業して約40年経っていますが昔と比べて変わった感じは個人的にはありませんでした。ただ授業の内容があまりにも昔と比べて変わっていることに驚きました。

勉強風景等みさせてもらいましたが、全く性質の違う二校なので、1つの高校にするのは難しいのではないかと思います。また農業高校への進学となると、中学校では職業体験として街中の商店等へはよく行くと思いますが、昨年度飯山小学校で農業へということで数名きていただいて、作文等で子どもたちから面白いという感想をもらったので、小学校のころから少しずつ体験させてもらうと第一希望で農林高校へ行きたいという子どもも増えるのかなと思いました。

富井飯山高校PTA会長)

自分の子どもが生活している学校を見させていただいて、保護者としては進学するにあたって学力向上をお願いしたいと思います。下高井農林高校は校外との連携がとても多く驚きました。

2校見させていただいて、まずは2校残す形で進めてほしいと思いました。子どもが少ない中で一番かわいそうだと思うのは部活動でありまして、部活動が充実した学校生活を送る上で大事になってくると思います。

岡田下高井農林高校PTA会長)

生徒が減ってきている中で、農業高校を出たから農業をやらなければいけないわけではありませんが、現状は農業関係の仕事をする場所が減ってきていると思います。

色んな選択肢があるとは思いますが、子どもに興味をもたせるといいますか、高校生になってから興味をもつのではなく、小学校・中学校の頃から色んなものに興味をもっていただいて、高校になって具体的に進路を決めていくことが大事かなと思います。また、子どもたちが就職できる会社等が増えれば地域の活性化にもつながるのでと思います。

日墓副会長)

今回両校を見学し皆様の意見をききまして、おおまかな意見としては特長ある両校を残してさらに魅力のある学校として将来残していきたいというのが皆さんの気持ちではないかと思います。それを前提として、下高井農林高校が実際に地域に順応したカリキュラムの再考、飯山高校についてはクラス編成等の課題も出てくると思いますので、両校をどういった形で残していくのかということで次回以降話を進めてもらい、皆さんの意見をお聞きできればと思います。

足立会長)

今、日墓副会長からも話がありましたが、委員の意見を聞くと2校ともに地域を担っていく人材を育てていく重要な高校であるとの認識は一緒だと思います。今回の会議では両校を残したいということを再認識したということになります。これからどういう形で残していくのかをさらに深めて話し合えるといいと思います。今日は県の関係の皆さまも委員として参加していただいているので、今後も色々お知恵を拝借しながら、ぜひ地域の将来のためにいい方向に進めていきたいですのでよろしくお願いします。

他にご意見がなければこれで本日の会を閉じさせていただこうと思います。

5 その他

- ・次回開催日程について _____月 _____日 () _____時～
6月後半、日程調整し通知予定とし終了。

6 閉 会